

第 7 期科学技術・イノベーション基本計画の策定及び 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画の進捗把握 に関する調査・分析等の委託

最終報告書

本報告書は、内閣府の令和 7 年度科学技術基礎調査等委託事業による委託業務として、株式会社三菱総合研究所が実施した令和 7 年度「第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定及び第6期科学技術・イノベーション基本計画の進捗把握に関する調査・分析等の委託」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の著作権は、内閣府に帰属しており、本報告書の全部又は一部の無断複製等の行為は、法律で認められたときを除き、著作権の侵害にあたるので、これらの利用行為を行うときは、内閣府の承認手続きが必要です。

目次

1. 目的と概要	1
1.1 調査・分析の目的	1
1.2 本報告書の概要	1
2. 第7期基本計画の策定に関する調査・分析	3
2.1 第7期基本計画の策定に関する調査・分析	3
2.1.1 基本計画専門調査会の論点素材等	3
2.1.2 重要技術領域検討ワーキンググループの論点素材等	4
2.1.3 その他関連資料	5
2.2 意見募集において提出された意見の整理・分析	6
3. 第7期基本計画で設定する目標値・指標に関する各種調査	7
3.1 第7期基本計画で設定する目標値・指標に関する調査	7
3.1.1 目標値・指標の考え方の整理	7
3.1.2 海外調査	11
3.1.3 目標値・指標案の検討	31
3.2 日本及び諸外国における研究開発投資目標	40
4. 統合イノベーション戦略に関する支援	42
4.1 統合イノベーション戦略策定支援	42
4.2 統合イノベーション戦略 2025 の英訳	42
5. 第6期基本計画の目標値・指標に関するモニタリングに関する調査	43
5.1 基本計画における指標データの収集・更新	43
5.2 第6期基本計画における進捗総括評価案の作成等	47
5.2.1 テーマ1「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出」	48
5.2.2 テーマ2「地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続的イノベーションの推進」	51
5.2.3 テーマ3「レジリエントで安全・安心な社会の構築」	57
5.2.4 テーマ4「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」	63
5.2.5 テーマ5「次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)」	70

5.2.6 テーマ 6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用」.....	75
5.2.7 テーマ 7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築」.....	82
5.2.8 テーマ 8「新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)」.....	90
5.2.9 テーマ 9「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張」.....	95
5.2.10 テーマ 10「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」.....	99
5.2.11 テーマ 11「知の価値の創出のための資金循環の活性化」.....	103
6. 調査会等の開催支援	109
7. 付属資料	112

図 目次

図 3-1 第 5 期基本計画における目標値と指標の関係	8
図 3-2 第 6 期基本計画における目標値と指標の関係	8
図 3-3 第 6 期基本計画におけるロジックチャートの課題と改善案	9
図 3-4 第 6 期基本計画における目標値・指標の課題と改善案	9
図 3-5 科学的インパクト経路指標	13
図 3-6 社会的インパクト経路指標	14
図 3-7 経済的インパクト経路指標	14
図 3-8 ①健全で強固な研究基盤 Excellence / A Healthy & Strong Foundation のツリー図(2020)	16
図 3-9 ②社会的インパクトの拡大 Societal Value / Impact のツリー図(2020)	17
図 3-10 ③多様な才能への機会拡大 Inclusiveness / Talent & Diversity のツリー図(2020)	18
図 3-11 第 5 次科学技術基本計画の全体像	21
図 3-12 第 5 次科学技術基本計画の指標・目標	22
図 3-13 ロジックチャート(アカデミアの研究力を向上させる)	33
図 3-14 ロジックチャート(イノベーションを創出する)	35
図 3-15 ロジックチャート(STI 政策と国家安全保障政策との有機的な連携)	37
図 3-16 基本計画全体の目標値・指標案のとりまとめイメージ	38
図 3-17 個別領域の目標値・指標案のとりまとめイメージ	39
図 5-1 テーマ1「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出」ロジックチャート	48
図 5-2 テーマ1「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出」主な指標の分析	49
図 5-3 テーマ 2「地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続的イノベーションの推進」ロジック チャート	51
図 5-4 テーマ 2「地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続的イノベーションの推進」主な指標 の分析	53
図 5-5 テーマ 3「レジリエントで安全・安心な社会の構築」ロジックチャート	57
図 5-6 テーマ 3「レジリエントで安全・安心な社会の構築」主な指標の分析	59
図 5-7 テーマ 4「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」 ロジックチャート	63
図 5-8 テーマ 4「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」 主な指標の分析(主要指標等)	65
図 5-9 テーマ 4「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」 主な指標の分析(参考指標)	67
図 5-10 テーマ5 「次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)」ロジッ クチャート	70
図 5-11 テーマ 5 「次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)」主な 指標の分析	72
図 5-12 テーマ 6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用」ロ	

ジックチャート.....	75
図 5-13 テーマ 6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用」主 な指標の分析	78
図 5-14 テーマ 7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築」ロジックチャート.....	82
図 5-15 テーマ 7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築」主な指標の分析	86
図 5-16 テーマ 8「新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)」ロ ジックチャート.....	90
図 5-17 テーマ 8「新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)」主 な指標の分析	92
図 5-18 テーマ 9「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張」ロジックチャート.....	95
図 5-19 テーマ 9「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張」主な指標の分析	96
図 5-20 テーマ 10「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」ロジック チャート	99
図 5-21 テーマ 10「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」主な指標の 分析	101
図 5-22 テーマ 10「知の価値の創出のための資金循環の活性化」ロジックチャート	103
図 5-23 テーマ 10「知の価値の創出のための資金循環の活性化」主な指標の分析	106

表 目次

表 3-1 目標値・指標を絞り込むための観点.....	10
表 3-2 基本計画に類似する諸外国計画・戦略における目標・指標の概要.....	11
表 3-3 EU での研究・イノベーションシステムの比較.....	12
表 3-4 オランダの定期的モニタリング.....	15
表 3-5 EIS のカテゴリと指標.....	20
表 3-6 戦略 1 の定量指標および目標.....	23
表 3-7 戦略 2 の定量指標および目標.....	24
表 3-8 戦略 3 の定量指標および目標.....	25
表 3-9 年度別目標設定の考え方.....	26
表 3-10 年度別達成度点検・改善対象から除外する指標.....	26
表 3-11 5つの指標のモニタリング状況.....	27
表 3-12 戦略1:質的成長のための科学技術体系の高度化の実績.....	28
表 3-13 戦略2:革新主体の力量向上およびオープン型エコシステムの造成の実績.....	29
表 3-14 戦略3:科学技術ベースの国家的懸案の解決および未来対応の実績.....	30
表 3-15 各国の研究開発投資目標.....	40
表 5-1 主要指標・参考指標一覧.....	43
表 5-2 テーマ1「サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出」総括.....	50
表 5-3 テーマ2「カーボンニュートラルの実現(カーボンニュートラルの実現)」総括.....	55
表 5-4 テーマ2「カーボンニュートラルの実現(循環経済への移行を進めることによる環境問題の克服への貢献)」総括.....	56
表 5-5 テーマ3「レジリエントで安全・安心な社会の構築(自然災害等への対応)」総括.....	60
表 5-6 テーマ3「レジリエントで安全・安心な社会の構築(総合的な安全保障上の取組)」総括.....	61
表 5-7 テーマ4「価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成」総括.....	68
表 5-8 テーマ5「次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開)」総括.....	73
表 5-9 テーマ6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用(未来社会像とエビデンスに基づく戦略策定)」総括.....	79
表 5-10 テーマ6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用(標準の戦略的・国際的な活用)」総括.....	80
表 5-11 テーマ6「様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用(科学技術外交の戦略的な推進)」総括.....	81
表 5-12 テーマ7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築(優秀な若者の博士後期課程への進学)」総括.....	87
表 5-13 テーマ7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築(厚みのある基礎研究・学術研究の推進)」総括.....	88
表 5-14 テーマ7「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築(ダイバーシティの確保、研究時間の確	

保、知の交流)」総括	89
表 5-15 テーマ 8「新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進(データ駆動型研究等の高付加価値な研究の加速))」総括	93
表 5-16 テーマ 8「新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進(市民等の多様な主体が参画した研究活動の推進))」総括	94
表 5-17 テーマ 9「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張(多様で個性的な大学群の形成)」総括	97
表 5-18 テーマ 9「大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張(国立研究開発法人の研究開発成果の最大化)」総括	98
表 5-19 テーマ 10「一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成(好奇心に基づいた学びによる探究力の強化)」総括	102
表 5-20 テーマ 11「知の価値の創出のための資金循環の活性化」総括	107
表 6-1 基本計画専門調査会・重要技術領域検討WGの概要	110
表 6-2 評価専門調査会・大規模研究開発評価WGの概要	111

1. 目的と概要

1.1 調査・分析の目的

科学技術・イノベーション基本計画(以下「基本計画」という。)は、科学技術・イノベーション基本法(平成7年法律第 130 号)に基づき政府が策定する計画であり、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局(以下「内閣府」という。)は基本計画の策定に係る事務を所掌している。

現行の第6期基本計画は、2021 年度から 2025 年度までの 5 年間の計画であり、2026 年度からは第7期基本計画が開始となる予定である。このため、総合科学技術・イノベーション会議評価専門調査会(以下「評価専調」という。)のもと、内閣府では、第6期基本計画を着実に推進するため、その進捗状況の把握、評価を実施している。また、2024 年 12 月から総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会(以下「基本専調」という。)を設置し、第7期基本計画の策定に向けた検討を開始している。令和7年度に実施する本委託事業は、これら第 6 期基本計画の進捗状況の把握・評価及び第 7 期基本計画の策定に資することを目的とする。

1.2 本報告書の概要

まず、「2.第7期基本計画の策定に関する調査・分析」では、内閣府が開催する基本計画専門調査会および重要技術領域検討ワーキンググループにおける検討状況に応じ、議論の論点に係る素材・データの整理や国内外の動向¹についての調査・分析を行い、内閣府における検討を支援した。海外調査の対象は、主に米・中・英・独・仏・韓・EU などを調査対象とした。加えて、「第7期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)」に関して、内閣府が実施した意見募集において提出された意見の整理・分析を行った。

次に、「3.第7期基本計画の策定に関する調査・分析」では、第7期基本計画における目標の設定、EBPM をより適切に行うために、必要となる計画の進捗状況を把握するための体系的な指標等に関する調査を行い、とりまとめた。指標の設定においては、目標や関連施策の内容、指標に施策の効果が反映されるまでの時間等を鑑みて、必要であれば、中長期的視点で把握すべきものも含めた。加えて、第7期の研究開発投資目標の検討に資するため、我が国及び諸外国の研究開発投資目標について調査を行った。

また、「4.統合イノベーション戦略に関する支援」において、統合イノベーション戦略 2026 の策定に資するため、主要国における STI 政策の動向・取組に関する情報提供を行い、内閣府における検討を支援した。また、統合イノベーション戦略2025本文及び概要の英訳を行った。

続いて、「5.第6期基本計画の目標値・指標に関するモニタリングに関する調査」では、「5.1 基本計画における指標データの収集・更新」として、第 6 期基本計画で設定された主要指標・参考指標について、情報源・データの存否、更新の必要性の有無について確認し、公表情報又は内閣府からの提供情報を基に収集・更新を行った。情報源が不明確なものやデータが存在していない主要指標・参考指標については、情報源やデータの取得可能性について再検討を行った。収集・更新した指標データは、「5.2 第 6 期基本計画における進捗総括評価案の作成等」において分析を行う基礎資料とした。

¹ 海外調査はデスクトップ調査を実施。実地調査は内閣府科学技術・イノベーション推進事務局と調整し実施しないこととした。

そして、「6.調査会等の開催支援」では、有識者関係機関から構成される基本計画専門調査会、重要技術領域検討ワーキンググループ、評価専門調査会、大規模研究開発評価ワーキンググループの運営（日程調整、事前レク及び当日の委員の出欠確認及び会議運営支援、議事録案及び議事概要案の作成、対象委員への謝金支払）を行った。

2. 第7期基本計画の策定に関する調査・分析

2.1 第7期基本計画の策定に関する調査・分析

内閣府が開催する基本計画専門調査会および重要技術領域検討ワーキンググループにおける検討状況に応じ、議論の論点に係る素材・データの整理や国内外の動向²についての調査・分析を行い、内閣府における検討を支援した。具体的には、以下の素材・データを作成した。

- 基本計画専門調査会の論点素材等
- 重要技術領域検討ワーキンググループの論点素材等
- その他関連資料

2.1.1 基本計画専門調査会の論点素材等

以下の各回における内閣府科学技術・イノベーション推進事務局からの配布資料のベースとなる論点素材・データを整理した。

(1) 基本計画専門調査会第5回の論点素材

第5回(令和7年4月25日開催)のテーマ「イノベーション力の向上に向けて」に関連して、イノベーション・エコシステムの構造や、大学・国立研究開発法人、スタートアップ・VC(ベンチャーキャピタル)、事業会社それぞれのイノベーション・エコシステムを巡る主な課題と論点(案)について素材を内閣府に提供した。

(2) 基本計画専門調査会第6回の論点素材

第6回(令和7年5月22日開催)のテーマ「グローバル戦略の在り方について」に関連して、科学技術・イノベーション政策におけるグローバル戦略の全体像や、グローバル戦略からみた科学技術・イノベーション政策の課題と論点(案)について素材を内閣府に提供した。

また、上記に加えて、以下のデータを整理・分析した。

(3) 諸外国のイノベーションエコシステム

米国、中国、ドイツ、韓国の四カ国について、各国それぞれが基礎研究の成果を社会実装に確実につなげるために、国・地域の状況、強みを有する分野、指向するミッションに応じて独自のエコシステムを構築している状況について整理・分析を行った。

【付属資料 2.1.1-01】諸外国のイノベーションエコシステム

² 海外調査はデスクトップ調査を実施。実地調査は内閣府科学技術・イノベーション推進事務局と調整し実施しないこととした。

(4) 国内外主要大学の収入内訳

海外有力大学の資金確保の状況を把握するため、英国オクスフォード大学、米国ハーバード大学、スタンフォード大学と日本の東京大学、京都大学の収入内訳データを調査し、内閣府に提供した。

2.1.2 重要技術領域検討ワーキンググループの論点素材等

重要技術領域検討ワーキンググループの議論の論点に係る以下のデータを提供した。

(1) スタートアップ投資動向

重点技術領域を検討する参考情報の一つとして世界の VC(ベンチャーキャピタル)が注目する技術領域を抽出した。データベース「Crunchbase³」を用いて領域別の投資件数の推移を集計し、件数と増加率をもとに萌芽領域/新興領域/ホット領域/安定領域に分け、内閣府にデータを提供した。

(2) 諸領域の市場規模

重点技術領域を検討する参考情報の一つとして、AI・ロボティクス、量子、半導体・通信、バイオ・ヘルスケア、宇宙、環境・エネルギー、航空、海洋、資源、モビリティなど諸領域の将来市場規模並びに成長率の整理を行った。無償公開されている各種市場調査会社のレポート、政府機関レポートなどから、現在/将来市場規模に関連する情報を収集し、将来市場規模、年平均成長率(CAGR)の整理を行った。

【付属資料 2.1.2-01】諸領域の市場規模

(3) 諸外国の重点技術領域の整理・分析

重点技術領域を検討する際の参考情報として、主要国・地域(米、中、EU、英、仏、独、韓、豪)における重要技術領域の調査を行った。具体的には、各国・地域における重要技術領域の検討主体、検討プロセス、重要技術領域の選定基準および重要技術領域について調査し、各国・地域ごとに個票に整理するとともに、主要国・地域で共通して選定されている分野、個別技術領域に差がある分野、国・地域により選定分野・個別技術領域ともに差がある分野に分けて整理し、比較・分析を行った。

【付属資料 2.1.2-02_01】諸外国の重点技術領域と選定基準(まとめ表)

【付属資料 2.1.2-02_02】諸外国の重点技術領域と選定基準(各国個票)

(4) McKinsey Technology Trends Outlook 2025 の概要とりまとめ

世界の技術潮流を産業界の視点から把握するため、McKinsey & Company「Technology Trends Outlook 2025」(2025 年 7 月)を基に、13 の最先端技術トレンドを整理した。

【付属資料 2.1.2-03_01】McKinsey 技術動向レポート 2025 の概要

³ <https://www.crunchbase.com/>

2.1.3 その他関連資料

(1) 諸外国の科学技術・イノベーションに係る国家・社会像の整理・分析

次期科学技術イノベーション基本計画において記述される国家・社会像の検討に資することを目的として、諸外国(米、中、英、仏、独、韓)および国内の科学技術イノベーション戦略文書における「目指す社会像」「科学技術立国の姿」についての記述ぶりを調査した。

【付属資料 2.1.3-01a】諸外国の科学技術・イノベーション国家・社会像

【付属資料 2.1.3-01b】国内の科学技術・イノベーション国家・社会像

(2) 韓国 第 5 次科学技術基本計画の概要調査

次期科学技術・イノベーション基本計画において設定される目標値・指標に関する検討に資することを目的として、定量指標・目標が戦略目標との関連において設定され、毎年、モニタリングが行われている事例となる韓国の科学技術基本計画の概要を調査した。

【付属資料 2.1.3-02】韓国第 5 次科学技術基本計画の概要

(3) 科学技術・イノベーションに関する若者世代からの意見聴取事例の整理・分析

若者世代(中学・高校・高専・大学生等)を対象とした座談会(AI、ロボット、宇宙開発、・・・、科学技術で世の中を良くしたい!と思ったこと)での参加者発言から、①研究者等の科学技術・イノベーションに関するキャリア意識、②若者世代に科学技術をリーチさせるために必要な取組、の観点で、意見集約・整理・分析を実施した。

【付属資料 2.1.3-03】科学技術・イノベーションに関する若者世代からの意見聴取事例とりまとめ

2.2 意見募集において提出された意見の整理・分析

「第7期科学技術・イノベーション基本計画(答申素案)」に関して、内閣府が実施した意見募集において提出された意見の整理・分析を行った。

3. 第7期基本計画で設定する目標値・指標に関する各種調査

3.1 第7期基本計画で設定する目標値・指標に関する調査

第7期基本計画における目標の設定、EBPM をより適切に行うために、必要となる計画の進捗状況を把握するための体系的な指標等に関する調査を行い、とりまとめた。指標の設定においては、目標や関連施策の内容、指標に施策の効果が反映されるまでの時間等を鑑みて、必要であれば、中長期的視点で把握すべきものも含めた。

3.1.1 目標値・指標の考え方の整理

過去の基本計画において目標値・指標がどのように位置づけられていたかを確認した上で、検討方針を定めた。

(1) 過去の基本計画における目標値・指標の考え方

1) 第5期科学技術基本計画

以下のように設定されている。

- 目標値
 - 我が国全体の科学技術イノベーションの状況について、達成すべき状況を定量的に明記することが特に必要かつ可能なものとして、基本計画本文の中に設定
- 主要指標(第1レイヤー指標)
 - 我が国全体の科学技術イノベーションの状況を俯瞰的に把握するための指標であり、「第5期科学技術基本計画における指標及び目標値について」⁴(以下、有識者議員ペーパー)において設定
- 関係指標(第2レイヤー指標)
 - 科学技術イノベーションに関する政策分野毎に状況を把握するための指標。有識者議員ペーパーにおいて、「必要に応じて、主要指標に紐付いた、より詳細な関係指標を定める」とされたことを受けたもの

設定された目標値、指標の概念を図示すると図 3-1 のようになる。目標値は 8 と絞られており、計画期間中に達成するものとして設定されている。第 2 レイヤー指標は検討されたものの、運用までは至っていない。

⁴平成27年12月18日総合科学技術・イノベーション会議有識者議員ペーパー

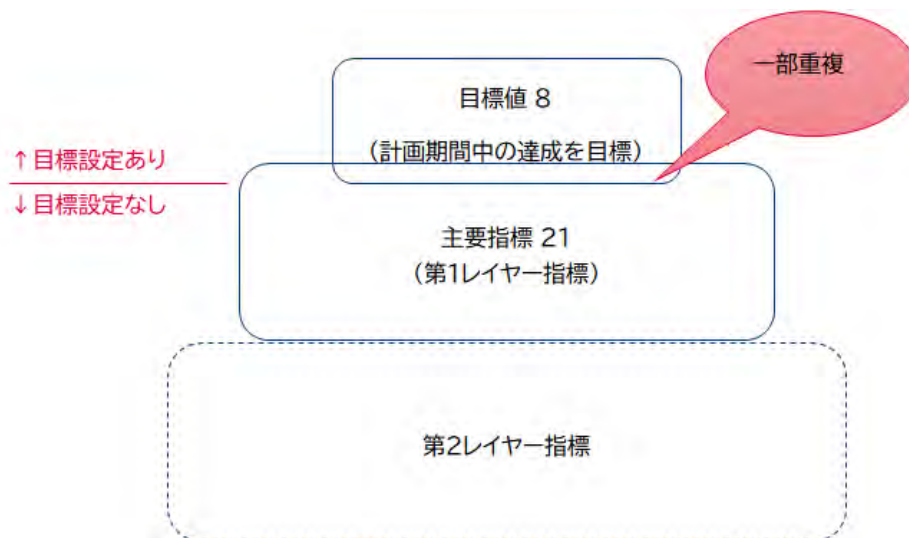


図 3-1 第 5 期基本計画における目標値と指標の関係

2) 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画

「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画のロジックチャートと指標」では、以下のように定義されている。

- 主要指標、参考指標
 - 「指標」は、状態を代表する計測可能なもの。基本計画期間中にモニタリングする対象。
- 目標値
 - 「目標値」は、STI 政策でコントロール可能で、第7期計画検討時に検証可能、かつメッセージ性があるものを設定(例：政府研究開発投資額など)。

設定された目標値、指標の概念を図示すると図 3-2 のようになる。目標値は指標の一部に設定されており、数も増加している。また、数値目標の達成時期は計画期間中に限定されていない。

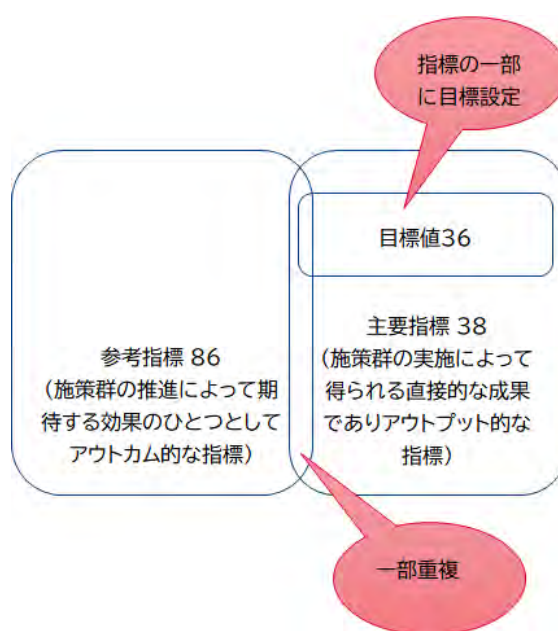


図 3-2 第 6 期基本計画における目標値と指標の関係

(2) 第 7 期に向けた検討方針

第 6 期の目標値・指標、及びその根拠となるロジックチャートについての課題とその改善案を図 3-3、図 3-4 のように整理し、第 7 期基本計画の目標値・指標案を検討することとした。

第6期のロジックチャートの課題	方針
中目標からのブレイクダウンのロジックが必ずしも統一されていない	上位目的の概念的な要素分解の考え方を明確にしてロジックを表記する
計画策定後の外部環境変化等により欠けている視点等がある(例:OA)	4つの領域について、上位目的からブレイクダウンして再検討
セオリー部分の「状態」の粒度、因果関係(向き)が不明確なところがある	セオリー部分は長期アウトカムの記載とし、シンプルに見やすく、記載する
府省の施策である「具体的な取組」について、粒度にばらつき、上位目的との関係が一部不明確	「取組」としてプログラム相当の施策群を記載し、上位目的と接続(個別省庁施策までは細分化しない)
動線設計・レイアウト・配色が分かりづらく、ロジックの流れが追えない	デザインを刷新し、視認性を改善

図 3-3 第 6 期基本計画におけるロジックチャートの課題と改善案

第6期の目標値・指標の課題	方針
目的(Goal)と目標(Objectives)の両方に「目標」という語をあてている	目標・指標の概念・用語を再整理
主要指標と参考指標に区分しているが、運用上の違いは小さい	
計測している長期アウトカム、アクションを適切に代理しきれていない指標がある 「オープンイノベーションにより大学等の研究開発成果が事業化される」に対して「研究者の部門間流動性」	個別に代表性を精査して設定
公的統計を中心に、計測時点と入手時点のタイムラグが大きい指標がある 大学等における産学連携等実施状況調査	情報源の見直し ストックではなくフローを見る 大学における女性研究者の割合→新規採用割合
目標値・指標の数が多いが、年次では水準、傾向の変化が小さいものがある	必要な指標を設定した上で、年次更新の対象は変化を見ることが有効な指標に絞る
目標を設定する指標の選定方法、目標の水準・時点の設定方法がルール化されていない	期間中に変化が生じる指標、ボトルネックとなる指標、メッセージ性がある指標等に目標を設定

図 3-4 第 6 期基本計画における目標値・指標の課題と改善案

また、目標値・指標については、評価を効果的・効率的に実施する観点から 20～30 程度の数とすることを想定し、表 3-1 の観点で絞り込んだ。

表 3-1 目標値・指標を絞り込むための観点

観点	説明
重要度	ロジックチャート上のボトルネックとなる状態に紐付いていること 達成が重要でメッセージ性が強いもの(達成時期と水準を明示)
代表性	目的や状態を適切に代理していること
明確性	データの定義や算出方法が明確であること
入手性	同じ定義のデータが安定的に入手できること、適切な頻度で入手できること
即時性	最新の状況が確認できること、基本計画期間内に何らかの変化が期待できること
国際性	国際的な比較ができるもの
効率性	全体の数がモニタリング・評価を効果的・効率的に実施するために適切であること (モニタリング・評価方法に依存する)

3.1.2 海外調査

目標値・指標案の作成の参考とするため、海外事例を調査した。

調査対象とした4事例の概要を表3-2に示す。

表 3-2 基本計画に類似する諸外国計画・戦略における目標・指標の概要

国・地域	文書名称	指標数	目標・指標の概要	策定の経緯・目的・特徴
EU	Horizon Europe (2021-2027 年)	27 (3×3×3)	計画策定時にプログラムのインパクト創出に向けた介入ロジックを「Key Impact Pathways」と呼ばれる9つの指標体系で整理 目標を科学的・社会的・経済的インパクトの三階層に分類し、短期・中期・長期の成果指標と対応させている	Horizon Europe の各目的に対応して KPI を策定。Horizon2020 の評価結果や独立専門家グループの提言を踏まえ、指標体系を設計 EU 予算のフレームワークの要請に従い、国際比較可能なデータ(例: 科学論文数や特許件数等)も活用 KPI の活用は、進捗モニタリングと政策コミュニケーションが目的
オランダ	Wetenschapsvisie 2025 (科学ビジョン 2025) (2014-2025)	43	文書内で「オランダ科学の3つの野心」として主要目標群(①世界的に有意義な科学、②社会・産業と密接に結びついた科学、③トップ人材の温床となる科学)が示され、各章で具体施策が体系立てて述べられている	専門家レビューと国際指標の活用。 本ビジョンは AWT(科学技術政策審議会)勧告や政府横断レビュー(BO)の提言を反映し、資金配分指標の見直し等を提案。例えば大学への成果指標としていた博士号取得者数を BO 提言に基づき「博士号取得者数に連動する資金は全体の20%を上限とする」調整が行われ、代わりに欧州からの研究資金獲得額を評価する新 KPI(資金誘引力)の導入を検討・実施。 KPI 設定には各分野の専門家や大学・研究機関からも意見を集約し、国際ベンチマーク(OECD、NSF 科学工学指標)も参照している

出所) European Commission「Horizon Europe programme analysis」、https://research-and-innovation.ec.europa.eu/strategy/support-policy-making/shaping-eu-research-and-innovation-policy/evaluation-impact-assessment-and-monitoring/horizon-europe-programme-analysis_en#:~:text=7.%20Generating%20innovation,investment%20in%20research%20and%20innovation,2025/5/26 他

EU では法的拘束力を伴わない形で加盟国間での研究・イノベーションシステムの比較を表 3-3 のように実施している。

表 3-3 EU での研究・イノベーションシステムの比較

国・地域	文書名称	文書の位置付け	指標数	指標の設定有無・概要	レビュー・評価の方針
EU	European Innovation Scoreboard (EIS)	欧州委員会が 2001 年から毎年発行している研究・イノベーションシステムの相対的な強み・弱みを比較・評価するためのツール 法的拘束力は持たない	32	毎年更新。(最新版は昨年は 7 月 8 日に公開)。全 32 指標を加重平均した「総合イノベーション指数」が各国に付与される。 EU 平均(=100)に対する相対値としてスコア化される 加盟国は 4 段階(イノベーション・リーダー(>125%)、強力なイノベーター(100-125%)、中程度のイノベーター(70-100%)、新興イノベーター(<70%)に分類	European Semester (欧州経済統治サイクル)の中で、EIS のデータが加盟国への政策勧告の根拠として活用される。 EU 補助金(例:復興基金や地域政策)配分の参考情報となる。
韓国	第 5 次科学技術基本計画 (2023-2027)	日本の科学技術イノベーション基本計画に相当 ビジョンと 3 つの戦略、重点育成技術(戦略技術)を設定	35	ビジョン(「科学技術革新が先導する大胆な未来」)に対しては直接指標を置いていない。 3 大戦略→17 推進課題 の階層に計 35 の指標が紐づけられ、戦略ごとに 9~12 指標が割り振られている。	モニタリングのコスト低減のため、MSIT と KISTEP が四半期ごとに課題ダッシュボードを更新し、色分けで政策会議に報告。 年度施行計画・予算配分・自己点検が 17 課題単位で編成され、未達 KPI を抱える課題のみを深掘り評価。

出所) EU は European Commission, "European Innovation Scoreboard 2024 Methodology report", https://research-and-innovation.ec.europa.eu/document/download/074d5495-433a-440f-bcf9-dc620fce7af1_en?filename=ec_rtd_eis-2024-methodology-report.pdf 及び European Innovation Scoreboard 2024 Questions and Answers, https://research-and-innovation.ec.europa.eu/document/download/lcfla2a0-a667-40dc-9132-4466cc5e2d54_en?filename=ec_rtd_eis-2024-questions-and-answers.pdf, 2025/6/20 アクセス
韓国は出所) JST/APRC「第 5 次科学技術基本計画 2023~2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>, 2025 年 6 月 4 日アクセス(以降の出所も同じ)

(1) EU | Horizon Europe

Horizon Europe では、インパクトを捕捉するため、鍵となるインパクトの道筋 (Key Impact Pathway: KIP) と呼ばれる目標を設定している。KIP は、科学的インパクト、社会的インパクト、技術的・経済的インパクトから各 3 つ、合計 9 項目からなる。

- ① 科学的インパクト: 高品質の新しい知識、技能、技術、ソリューションの創造と普及を支援することに関連する。
- ② 社会的インパクト: EU の政策の開発、支援、実施における研究及びイノベーションの影響を強化すること、そして世界的課題に対処するための産業と社会における革新的ソリューションの援助を支援することに関連する。
- ③ 経済的・技術的インパクト: 画期的なイノベーションを含むあらゆる形態のイノベーションの育成、革新的なソリューションの市場展開の強化に関連する。

1. 科学的インパクト経路指標 (Scientific impact pathway indicators)



図 3-5 科学的インパクト経路指標

出所)内閣府「第5期科学技術基本計画レビューに関するデータ集」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5review/siryol-6.pdf>, 2025 年 5 月 27 日アクセス

2. 社会的インパクト経路指標 (Societal impact pathway indicators)

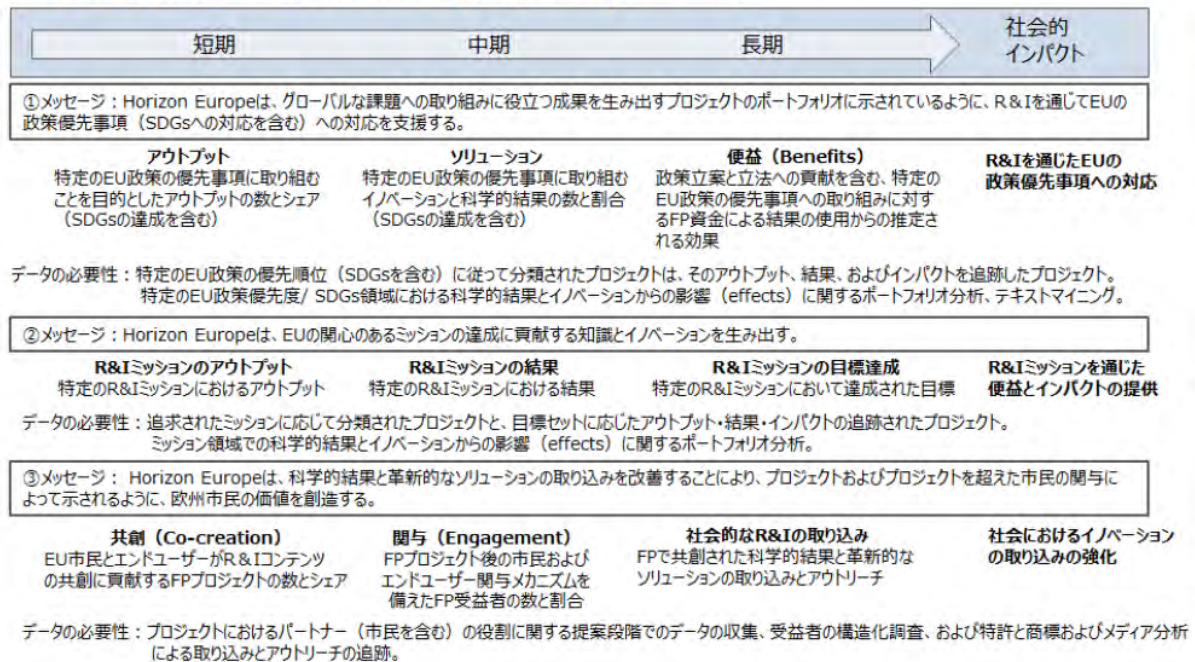


図 3-6 社会的インパクト経路指標

出所)内閣府「第5期科学技術基本計画レビューに関するデータ集」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5review/siryoi-6.pdf>、2025年5月27日アクセス

3. 経済的インパクト経路指標 (Economic impact pathway indicators)

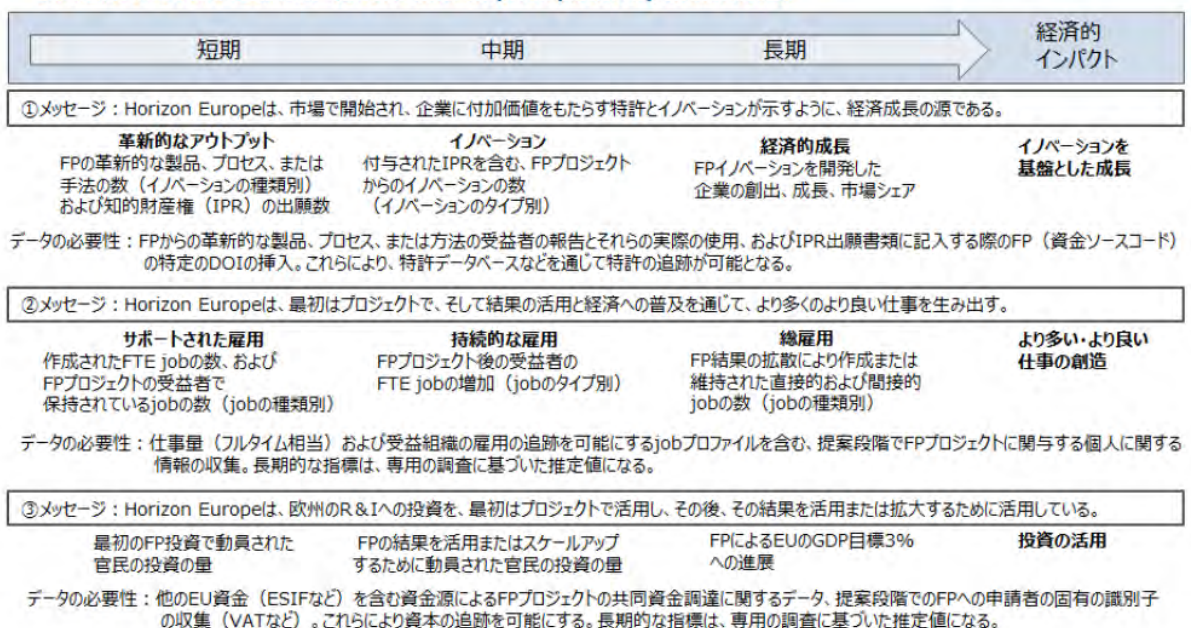


図 3-7 経済的インパクト経路指標

出所)内閣府「第5期科学技術基本計画レビューに関するデータ集」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5review/siryoi-6.pdf>、2025年5月27日アクセス

(2) オランダ | オランダ科学ビジョン 2025

オランダでは 2014 年に「オランダ科学ビジョン 2025(Wetenschapsvisie 2025)」を策定している。同ビジョンは、2025 年までにオランダの科学が社会的課題、経済成長、世界的な科学的卓越性に貢献し続けることを確実にするための目標と戦略を定めたものである。

ラテナウ研究所は 2020 年に、「2025 年科学ビジョン」の特に3つの目標の達成状況を測定し評価し、その際にツリー図を作成している。

ツリーでは政策目標－行動(action)－計測項目(instrument)－指標(indicator)を設定しており、日本の科学技術イノベーション基本計画に近いレビューを行っている。

指標は研究費などのインプット・論文などアウトプット指標が多く含まれており、インパクト指標は限られる。

表 3-4 オランダの定期的モニタリング

ゴールツリー上の 3 大目標(科学ビジョン 2025 の「野心」)	指標数 (2020 版)	指標数 (2024 版)	主な指標と具体例	外部ベンチマーク 補足データ	質的レビューの有無
①健全で強固な研究基盤 Excellence / A Healthy & Strong Foundation	14	15	インプット:公的 R&D 投資額 (%GDP) / FTE アウトプット:論文数・被引用度 アウトカム:ERC、MSCA、Spinoza 等の競争的資金獲得件数 インパクト:国際ランキングで上位 200 に入る大学数 等	OECD MSTI, Eurostat, CWTS InCites など国際統計を並列で掲載	国立訪問評価委員会レポート (Visitatierapport)、ピアレビュー結果を引用して研究の質を補足
②社会的インパクトの拡大 Societal Value / Impact	15	17	アウトプット:産学共同研究契約件数、研究費(購買力平価換算) アウトカム:PCT 特許出願数、リージョナル・キャンパス数 インパクト:Horizon Europe “Global Challenges” 参加比率、SDGs 関連研究投資額 等	Eurostat Patstat、 OECD REGPAT、 EU Horizon HEU Dashboard	ケーススタディ: National Groeifonds プロジェクト別レビュー
③多様な才能への機会拡大 Inclusiveness / Talent & Diversity	9	11	インプット:海外研究者招聘数、女性研究者比率 アウトカム:博士号取得者数、若手常勤ポスト比率 インパクト:STEM 修了者の就職率	UNESCO UIS、 Eurostat LFS ほか	若手研究者へのアンケート調査(ワークロード・安全性)を隔年実施

ゴールツリー上の 3大目標(科学ビジョン2025の「野心」)	指標数 (2020版)	指標数 (2024版)	主な指標と具体例	外部ベンチマーク 補足データ	質的レビューの有無
ツリー外で補完する指標群	-	-	研究文化:研究公正性事例件数、研究不正サーベイ結果 市民の科学への信頼:自然科学 vs. 社会科学の信頼度差 知識安全保障:外国投資審査件数、デュアルユース相談件数	アドホック調査、統計局調査	-

出所)次期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けたレビュー手法及び重要検討テーマ等に関する研究・調査分析等の委託及びラテナウ研究所「Balans van de wetenschap 2024」, <https://www.rathenau.nl/nl/werking-van-het-wetenschapssysteem/balans-van-de-wetenschap-2024>, 2025年5月27日アクセス

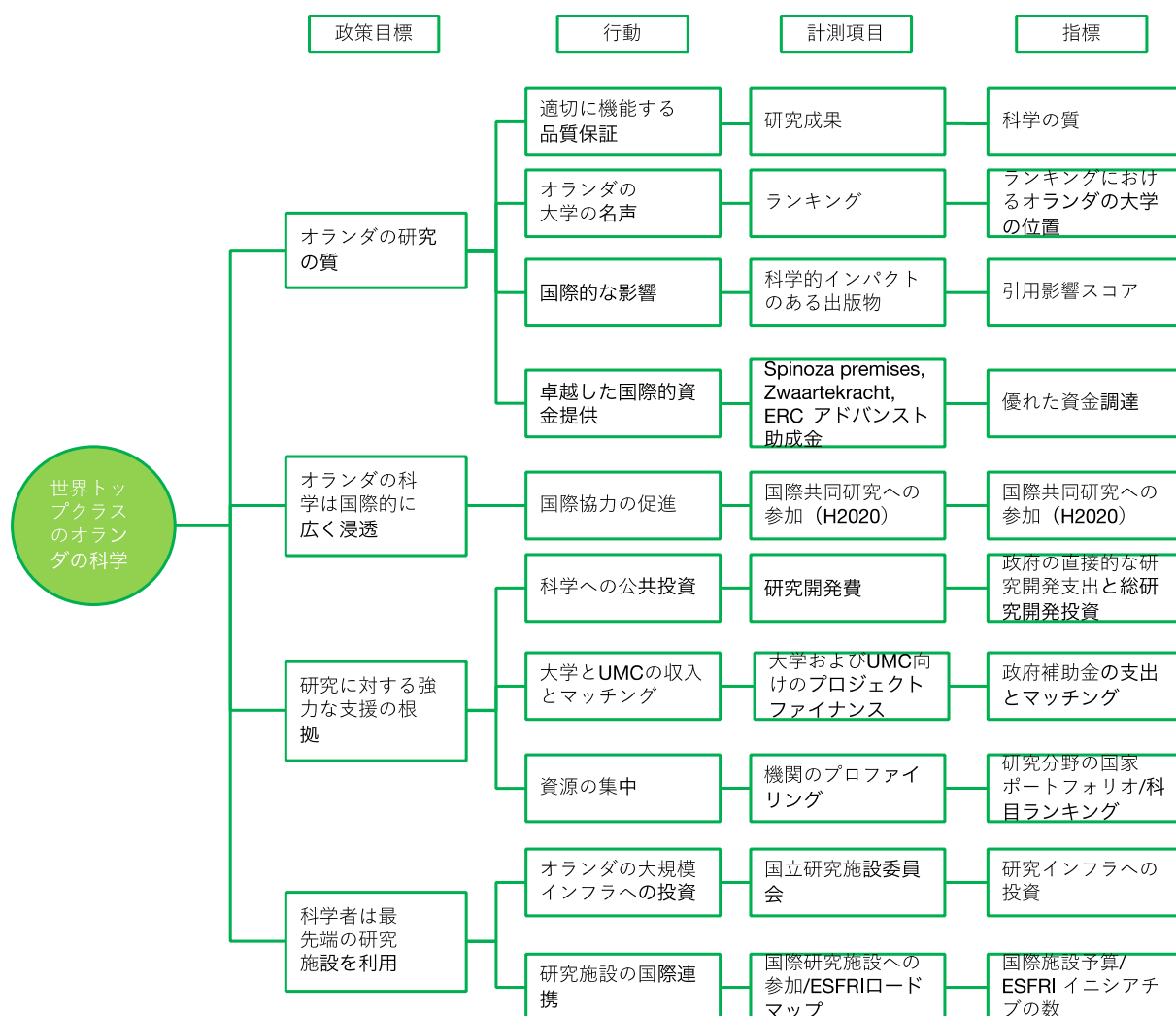


図 3-8 ①健全で強固な研究基盤 Excellence / A Healthy & Strong Foundation のツリー図(2020)

出所)次期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けたレビュー手法及び重要検討テーマ等に関する研究・調査分析等の委託

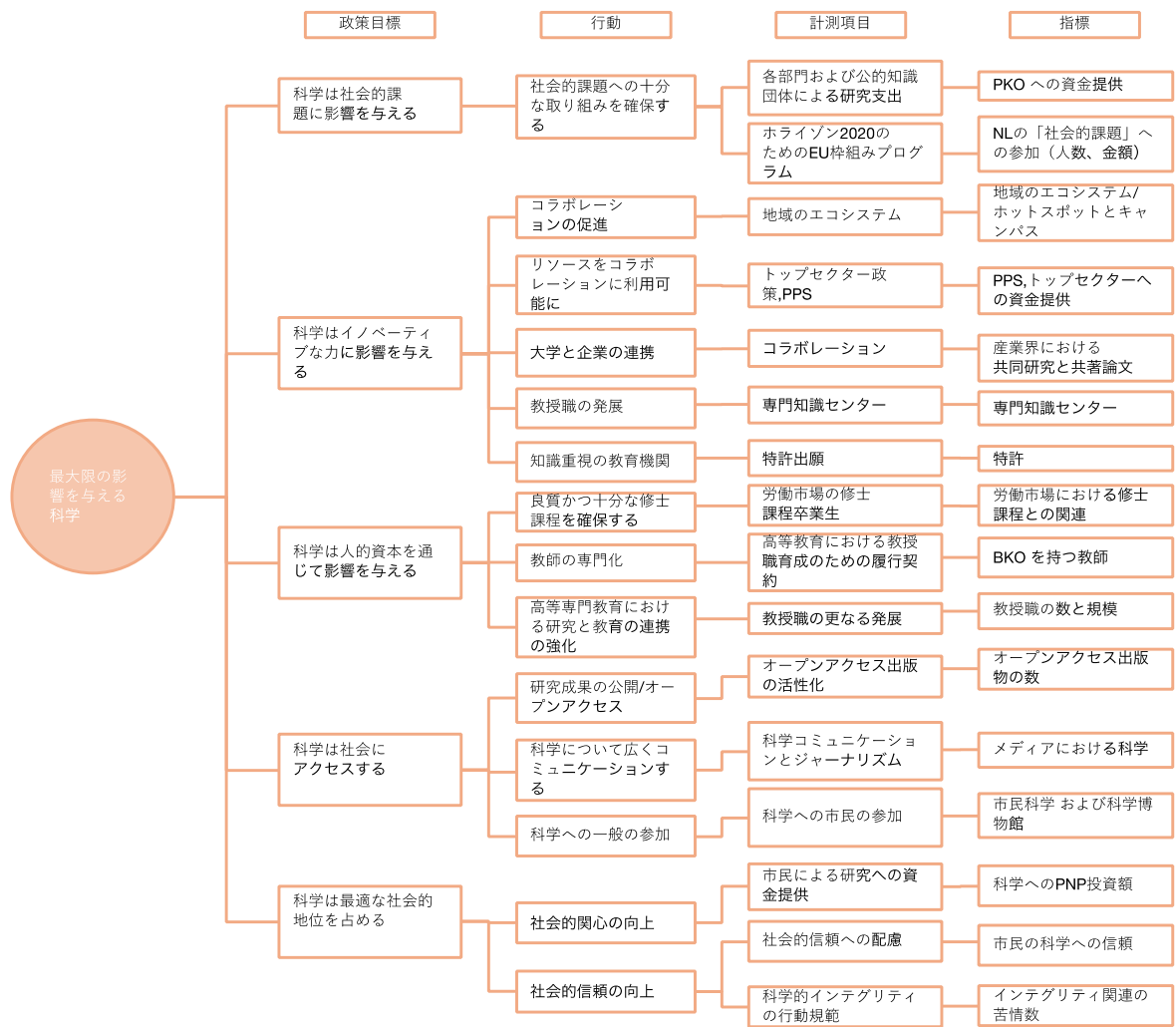


図 3-9 ②社会的インパクトの拡大 Societal Value / Impact のツリー図(2020)

出所) 次期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けたレビュー手法及び重要検討テーマ等に関する研究・調査分析等の委託

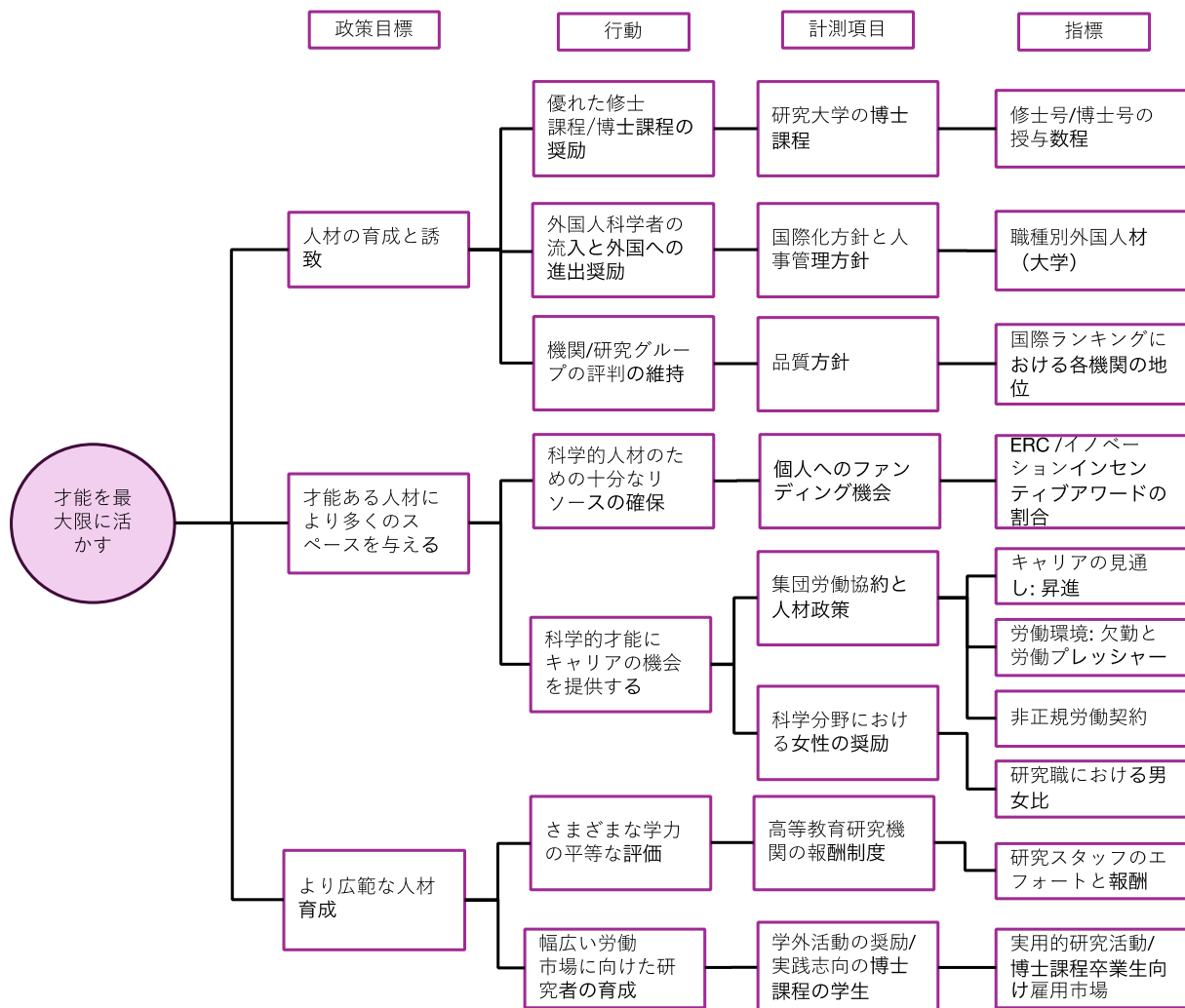


図 3-10 ③多様な才能への機会拡大 Inclusiveness / Talent & Diversity のツリー図(2020)
出所)次期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けたレビュー手法及び重要検討テーマ等に関する研究・調査分析等の委託

(3) EU | European Innovation Scoreboard(EIS)

欧州委員会が 2001 年から毎年発行している研究・イノベーションシステムの相対的な強み・弱みを比較・評価するためのツールで、法的拘束力は持たない。

合成指標は以下のように作成される。

- ステップ 1 | 各指標を標準化(相対値への変換)
 - 各指標値は「EU 平均(基準年:2017 年)= 100」となるようにスケーリングされる。
 - 標準化スコア = (国の指標値 / EU 平均値) × 100
 - これにより、EU 平均より高い国は 100 超、低い国は 100 未満のスコアとなる。
- ステップ 2 | 次元(dimension)ごとに単純平均
 - 同一の次元(例: 人的資源、人材流動など)に属する指標値を単純平均(等)する。
 - 「人的資源(Human resources)」は 3 つの指標を持つので、それぞれの標準化スコアの平均値がその国の人的資源スコアになる。
- ステップ 3 | カテゴリ(main category)ごとに平均
 - 各カテゴリ(例: Framework Conditions、Investments)内の 3 つの次元スコアを単純平均。
- ステップ 4 | 全体(SII)としてさらに平均
 - 最終的な Summary Innovation Index(SII)は、4 つの主要カテゴリ(Framework, Investment, Activities, Impacts)のスコアを単純平均して算出。
 - すべての指標・次元・カテゴリに等しい重みを与えられる。

表 3-5 EIS のカテゴリと指標

カテゴリ		指標
Framework Conditions イノベーションの前提となる環境(人的資源、研究基盤、デジタル化)	1-1. Human resources (人的資源)	25～34 歳の高等教育修了率 博士号取得者数の割合・生涯学習参加率
	1-2. Attractive research systems (魅力ある研究システム)	国際共著論文比率 上位 10%被引用論文比率 外国人博士研究員流入比率
	1-3. Digitalisation (デジタル化)	基本以上のデジタルスキルを持つ個人の割合 中小企業による高速インターネット活用 中小企業のクラウド活用率
Investments(投資) 公的・民間の R&D・ICT 投資・金融アクセスの状況	2-1. Finance and support! (資金と支援)	政府部門の研究開発支出(GDP 比) 高等教育機関の研究開発支出(GDP 比) ベンチャーキャピタル投資額(GDP 比)
	2-2. Firm investments (企業投資)	企業の研究開発支出(売上比) 非研究開発イノベーション支出(商品設計、マーケティングなど)
	2-3. Use of information technologies (ICT 活用)	ICT 研修を実施する企業の割合 ICT 専門人材を雇用している企業の割合
Innovation Activities(イノベーション活動) イノベーション実施状況、産学官連携、知財創出	3-1. Innovators(イノベーター)	製品・プロセス革新を実施した中小企業比率 マーケティング・組織革新を実施した中小企業比率
	3-2. Linkages(連携)	共同イノベーションを行う中小企業比率・産学官 共著論文数(100 万人あたり) 民間から公的研究機関への S&T 人材の流動率
	3-3. Intellectual assets(知的資産)	人口 100 万人あたり特許出願数(PCT) 商標出願数 意匠出願数
Impacts(成果・社会経済インパクト) イノベーションによる成果: 雇用・経済・環境への貢献度	4-1. Employment impact (雇用インパクト)	知識集約的活動の雇用割合 革新的企業による雇用の比率
	4-2. Sales impact (販売・輸出インパクト)	中・高技術製品(ハイテク製品)の輸出比率 知識集約サービスの輸出比率 革新的製品による売上高(新市場向け)
	4-3. Environmental sustainability (環境持続性)	資源生産性(GDP/原材料投入) PM2.5(大気汚染)暴露人口割合 環境関連技術の特許出願割合

出所) EU は European Commission, "European Innovation Scoreboard 2024 Methodology report", https://research-and-innovation.ec.europa.eu/document/download/074d5495-433a-440f-bcf9-dc620fce7af1_en?filename=ec_rtd_eis-2024-methodology-report.pdf 及び European Innovation Scoreboard 2024 Questions and Answers, https://research-and-innovation.ec.europa.eu/document/download/1cf1a2a0-a667-40dc-9132-4466cc5e2d54_en?filename=ec_rtd_eis-2024-questions-and-answers.pdf, 2025/6/20 アクセス

(4) 韓国 | 第5次科学技術基本計画

韓国の第5次科学技術基本計画の概要と目標及び指標は図 3-11、図 3-12 の通りである。



図 3-11 第5次科学技術基本計画の全体像

出所)JST/APRC「第5次科学技術基本計画 2023～2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>、2025年6月4日アクセス



図 3-12 第5次科学技術基本計画の指標・目標

出所)JST/APRC「第5次科学技術基本計画 2023～2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>、2025年6月4日アクセス

1) 指標・目標の設定

a. 戦略1: 科学技術体系の転換を通じて国家研究開発活動の質的成長を図る

● 目標

- 被引用上位1%論文占有率: 3.5%('15~'19)→4.8%('22~'26)
- 世界レベルで8つの国家戦略技術分野を育成

表 3-6 戦略1の定量指標および目標

	区分(推進課題)	指標名(出所)	ベースライン	目標(2027年)
1-1	ミッション中心の問題解決のためのR&D戦略性を強化	技術水準 90%以上の重点技術数(韓国科学技術企画評価院)	5 個('22)	25 個
		カーボンニュートラル・戦略技術分野のR&D予算規模(科学技術情報通信部)	5.45 兆ウォン('22)	7 兆ウォン以上
1-2	自律と創意を高める研究環境の改善	研究者における自律・創意研究環境満足度(国家科学技術現況 総合認識調査)	新規	—
		IRIS 適用機関数(科学技術情報通信部)	5 個('22)	32 個
1-3	R&D 成果創出・拡散・活用・保護基盤の強化	公共研究機関(大学・研究所)技術移転受入れ(技術移転・事業化実態調査)	2,643 億ウォン('21)	3,500 億ウォン
		標準特許占有率(国家知識財産基本計画))	22.8%('21)	25%
1-4	将来のコア人材の養成・確保	主要国の韓国人博士学位者 U ターン数(米 NSF)	33%('20)	50%
1-5	国民とともに行う科学文化の活性化	科学文化専門人材数(科学技術文化基本計画)	2,800 人('21)	7,000 人
		生活科学教室の受益者数(韓国科学創意財団)	12.8 万人('21)	20 万人

出所)JST/APRC「第5次科学技術基本計画 2023~2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>, 2025 年 6 月 4 日アクセス

b. 戦略 2:革新主体の個々の力量向上およびオープンエコシステムづくりによる相互協力の拡大

● 目標

- ハイテク産業輸出市場占有率:7.50%('20) → 10.0%('27)
- 三極特許数:3,057 件('19) → 3,500 件('27)

表 3-7 戦略 2 の定量指標および目標

	区分(推進課題)	指標名(出所)	ベースライン	目標(2027 年)
2-1	民間主導革新による成長動力の確保	企業研究開発集約度(売上高研究開発費比率) (研究開発活動調査)	3.7 % (' 20)	5.1 %
		革新型中小企業の割合(革新活動遂行企業) (OECD Business Innovation Indicators)(韓国企業革新調査)	17.9 % (' 21)	35 %
2-2	大学・公共研究機関の革新拠点の役割強化	政府 R&D のうち大学・公共研究機関の遂行協力研究課題数(国家研究開発事業調査分析報告書)	14.7 % (' 20)	20 %
		Nature Index(Leading Institutions 200 位以内の機関数) (Nature)	6 機関 (' 22)	10 機関
2-3	新技術・新産業中心の創業および成長支援	公共 R&D 基盤新規創業企業数 (技術移転・事業化実態調査)	437 社 (' 21)	600 社
		ディープレックユニコーン企業数(中小ベンチャー企業部)	1 社 (' 21)	5 社
2-4	バランス発展と革新成長をリードする地域革新体系の構築	首都圏外地域の企業付設研究所の研究員数 (韓国産業技術振興協会)	102,650 人(' 21)	150,000 人
2-5	科学技術外交・協力リーダーシップの確保	韓国の海外協力論文占有率(米国国立科学統計センター)	34.1% (' 21)	40%
		研究開発費の外国財源割合(OECD)	1.6% (' 19)	3.2%

出所)JST/APRC「第 5 次科学技術基本計画 2023～2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>, 2025 年 6 月 4 日アクセス

c. 戦略 3: 科学技術をベースとして国家が直面した懸案を解決し、未来の課題に対する先制的な対応

● 目標

- 生活の質指数ランキング: 32 位('20) → 20 位('27)

表 3-8 戦略 3 の定量指標および目標

	区分(推進課題)	指標名(出所)	ベースライン	目標(2027年)
3-1	炭素中立の先導および持続可能な環境への転換	気候技術水準(グリーン技術センター)	80%('20)	90%
		気候技術産業売上高(グリーン技術センター)	168.7 兆ウォン('20)	205 兆ウォン
3-2	デジタル転換期の先導的対応による経済再跳躍	デジタル技術水準(IITP, ICT 技術力)	88.6%('20)	93% 以上
		データ市場(韓国データ産業振興院)	23 兆ウォン('21)	50 兆ウォン
3-3	100 歳時代の科学技術ベースの国民健康の増進	生命・保健医療技術水準(韓国科学技術企画評価院)	77.9%('20)	87.4%
		バイオヘルス輸出(韓国保健産業振興院)	257 億ドル('21)	452 億ドル
3-4	未来のリスク対応および安全社会の実現	災害安全分野技術水準(国立災難安全研究院)	80%('20)	85%
3-5	グローバル供給網の再編対応および先占	フォーブス 2,000 中 韓国の素部装企業(産業通商資源部)	11('20)	17
3-6	科学技術強軍の育成およびサイバー主権の守護	国防科学技術水準(韓国科学技術企画評価院)	75.0%('20)	77%
		セキュリティ産業売上高(韓国情報保護産業協会)	12.6 兆ウォン('21)	20 兆ウォン
3-7	宇宙・海洋・極地開拓による科学領域の拡大	宇宙航空海洋技術水準(韓国科学技術企画評価院)	68.4%('20)	80%
		韓国型発射体活用衛星発射累積回(科学技術情報通信部)	2 回('22)	6 回

出所) JST/APRC「第 5 次科学技術基本計画 2023~2027 科学技術革新がリードする大胆な未来」
<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>、2025 年 6 月 4 日アクセス

2) 実績・点検

基本計画 5 年間の各年の成果指標の設定は、政策が奏功するまでの所要期間を考慮し、1～3 年目については成長率を低めに、3～5 年目については目標達成に向け、高めに設定するのが基本方針となっている。

表 3-9 年度別目標設定の考え方

時期	
1～3 年目	最終年目標の 50%水準を達成するシナリオで年毎の達成目標を設定
3～5 年目	最終年に目標に到達するよう線形的に年毎の達成目標を設定

科技政策のみにより改善できるとは限らない数値等はモニタリングのみ行い、点検・詳細調査対象からは除外する。

表 3-10 年度別達成度点検・改善対象から除外する指標

区分	対象指標
市場環境、経済・社会政策等の複合的な影響により、科学技術政策だけで改善することが難しいと考えられる指標	QOL 指数順位 Nature Index Forbes2000 のうち、韓国の素材・部品・装備企業数 ハイテク産業輸出市場占有率 ディープテックユニコーン企業数 クライメートテック産業売上高 バイオヘルス輸出額
隔年または不定期に発表される指標であり、年度別点検時に確認することが難しいと考えられる指標	革新型中小企業の比率
新規指標	研究者の体感自律・創意研究環境満足度

科学技術基本法第 7 条に基づき毎年施行計画が策定され、年度別の実績が毎年モニタリングされる。その結果は次年度の施行計画へと反映される。

表 3-11 5つの指標のモニタリング状況

指標(指標設定組織)	基準		'23年目標 (実績)	'24年目標 (実績)	'25年	'26年	'27年 (対象年度)	備考
	発表年度 (対象年度)	基準値						
被引用上位1%論文占有率(韓国研究財団)	'22年 ('16-'20)	3.7%	3.8 (3.87)	3.9 (4.0)	4	4.4	4.8% ('21-'25)	
世界レベルの戦略技術分野数(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	3個	4 (1)	4 (-)	5	6	8個 ('26)	隔年発表
三極特許数(OECD)	'22年 ('20)	3,244件	3,270 (-)	3,295 (-)	3,321	3,410	3,500件 ('25)	'25年上期 発表予定
ハイテク産業輸出市場占有率 (OECD)	'22年 ('20)	7.5%	7.8 (-)	8.0 (-)	8.3	9.1	10.0% ('25)	年度別点検 対象外
生活の質指数ランキング(OECD)	'22年 ('20)	32位	31 (-)	30 (-)	28	24	20位 ('26)	年度別点検 対象外

年度別目標達成

年度別目標を達成できなかったが、前期比の実績値は改善

年度別目標を達成できておらず、前期比実績値も悪化

出所:国家科学技術諮問会議「第5次科学技術基本計画および第1次国家研究開発中長期投資戦略2023年施行計画」
https://pacst.go.kr/jsp/council/councilArchiveView.jsp?archive_id=1103&cpage=12、2025年6月13日アクセス
 国家科学技術諮問会議「第5次科学技術基本計画および第1次国家研究開発中長期投資戦略2024年施行計画」
https://pacst.go.kr/jsp/council/councilArchiveView.jsp?archive_id=1142&cpage=8、2025年6月13日アクセス
 国家科学技術諮問会議「第5次科学技術基本計画および第1次国家研究開発中長期投資戦略2025年施行計画」
https://pacst.go.kr/jsp/council/councilArchiveView.jsp?archive_id=1191&cpage=2、2025年6月13日アクセス

a. 戦略1:科学技術体系の転換を通じて国家研究開発活動の質的成長を図る

表 3-12 戦略1:質的成長のための科学技術体系の高度化の実績

指標(指標設定組織)	基準		'23年目標 (実績)	'24年目標 (実績)	'25年	'26年	'27年 (対象年度)	備考	
	発表年度 (対象年度)	基準値							
1-1	技術水準90%以上の重点技術数(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	5個	7 (13)	9 (一)	11	18	25個	隔年発表
	カーボンニュートラル・戦略技術分野のR&D予算規模(科学技術情報通信部)	'22年 ('22)	6.45 兆ウォン	6.6 (7)	6.73 (7)	—	—	8兆ウォン ('27)	基準値変更により 目標調整 ¹
1-2	研究者における自律・創意研究環境満足度(国家科学技術現況 総合認識調査)	'23年 ('23)	65.1点	—	66.3 (63.4)	—	—	75点 ('27)	新規 ²
	IRIS適用機関数(科学技術情報通信部)	'22年 ('22)	5個	8 (29)	10 (32)	13	23	32個 ('27)	
1-3	公共研究機関(大学・研究所)技術移転受入れ (技術移転・事業化実態調査)	'22年 ('20)	2,643 億ウォン	2,729 (2,810)	2,814 (2,482)	2,900	3,200	3,500 億ウォン ('25)	
	標準特許占有率 (国家知識財産基本計画))	'22年 ('21)	22.8%	23.0 (19.2)	23.2 (15.5)	23.5	24.2	25% ('26)	
1-4	主要国の韓国人博士学位者Uターン数 (米NSF)	'22年 ('21)	35.5%	37.0 (34.9)	38.4 (28.9)	39.9	44.9	50.0% ('26)	
1-5	科学文化拡大成果(韓国科学創意財団)	'23年 ('23)	854.67 万名	—	— (884.61)	—	—	980.8万名	新規 ³
	生活科学教室の受益者数(韓国科学創意財団)	'22年 ('22)	15.4万名	15.8 (16.1)	16.3 (19.2)	16.8	18.4	20万名 ('27)	

1. 当初の基準値は5.45兆ウォン、目標値は7兆ウォン

2. 新規指標の場合、'23年の結果に基づき、今後4年間の年度別目標値を設定

3. 既存指標調査終了により、別の新規指標で'23年及び'24年の実績を活用、今後3年間の年度別目標値を設定

(参考)当初の指標である「科学文化専門人材数」の基準値は3,320名、目標値は7,000名で、'23年実績は4,199名

b. 戦略 2:革新主体の個々の力量向上およびオープンエコシステムづくりによる相互協力の拡大

表 3-13 戦略2:革新主体の力量向上およびオープン型エコシステムの造成の実績

指標(指標設定組織)	基準		'23年目標 (実績)	'24年目標 (実績)	'25年	'26年	'27年 (対象年度)	備考
	発表年度 (対象年度)	基準値						
2-1 企業研究開発集約度(売上高研究開発費比率) (研究開発活動調査)	'22年 ('20)	3.7%	3.8 (3.64)	4.0 (3.23)	4.1	4.6	5.1% ('25)	
革新型中小企業の割合(革新活動遂行企業) (OECD Business Innovation Indicators)(韓国企業革新調査)	'22年 ('21)	18%	19.6 (-)	21.3 (-)	23	29	35% ('25)	年度別点検 対象外
2-2 政府R&Dのうち大学・公共研究機関 の遂行協力研究課題数(国家研究開発 事業調査分析報告書)	'22年 ('20)	14.7%	15.2 (9.1)	15.8 (10.5)	16.3	18.1	20% ('25)	
Nature Index(Leading Institutions 200位以内の機関数)(Nature)	'22年 ('22)	6個	6 (-)	7 (-)	7	9	10個 ('27)	年度別点検 対象外
2-3 公共R&D基盤新規創業企業数 (技術移転・事業化実態調査)	'22年 ('20)	395個	416 (437)	436 (486)	457	528	600個 ('26)	
ディープテックユニコーン企業数(中小 ベンチャー企業部)	'22年 ('21)	1個	1 (-)	2 (-)	2	4	5個 ('26)	年度別点検 対象外
2-4 首都圏外地域の企業付設研究所の研 究員数 (韓国産業技術振興協会)	'22年 ('21)	10.3万名	10.7 (10.5)	11.2 (10.1)	11.7	13.3	15.0万名 ('26)	
2-5 韓国の海外協力論文占有率(米国国 立科学統計センター)	'22年 ('21)	34.1%	34.7 (35.7)	35.3 (37.2)	35.9	37.9	40.0% ('26)	
研究開発費の外国財源割合(OECD)	'22年 ('20)	0.2%	0.5 (0.3)	0.8 (0.3)	1.1	2.2	3.2% ('25)	

c. 戦略3:科学技術をベースとして国家が直面した懸案を解決し、未来の課題に対する先制的な対応

表 3-14 戦略3:科学技術ベースの国家的懸案の解決および未来対応の実績

指標(指標設定組織)	基準		'23年目標 (実績)	'24年目標 (実績)	'25年	'26年	'27年 (対象年度)	備考	
	発表年度 (対象年度)	基準値							
3-1	環境・気象技術水準(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	81.1%	82 (83)	82.9 (－)	83	87	90% ('26)	指標変更 ¹ 、 隔年発表
	気候技術産業売上高(グリーン技術センター)	'22年 ('21)	200 兆ウォン	201 (－)	201 (－)	202	203	205兆ウォン ('26)	年度別点検 対象外
3-2	デジタル技術水準(IITP, ICT 技術力)	'22年 ('20)	88.6%	89 (89.6)	89.5 (90)	89.9	91.5	93% ('25)	
	データ市場(韓国データ産業振興院)	'22年 ('21)	23兆ウォン	25.8 (25.1)	28.5 (27.2)	31.2	40.6	50兆ウォン ('26)	
3-3	生命・保健医療技術水準(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	77.9%	78.9 (79.4)	79.8 (－)	80.8	84.1	87.4% ('26)	隔年発表
	バイオヘルス輸出(韓国保健産業振興院)	'22年 ('21)	257億ドル	277 (－)	296 (－)	316	384	452億ドル ('26)	年度別点検 対象外
3-4	災害安全分野技術水準(国立災難安全研究院)	'22年 ('21)	81.4%	81.8 (81.2)	82.1 (80.3)	82.5	83.7	85% ('26)	
3-5	フォーブス2,000中 韓国の素部装企業 (産業通商資源部)	'22年 ('22)	11社	12 (－)	12 (－)	13	15	17社 ('27)	年度別点検 対象外
3-6	国防科学技術水準(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	75%	75.2 (76.7)	75.4 (－)	75.6	76.3	77% ('26)	隔年発表
	セキュリティ産業売上高(韓国情報保護産業協会)	'22年 ('21)	13.9 兆ウォン	14.5 (16.2)	15.1 (16.8)	15.7	17.9	20兆ウォン ('26)	
3-7	宇宙航空海洋技術水準(韓国科学技術企画評価院)	'21年 ('20)	68.4%	69.6 (6.16)	70.7 (－)	71.9	75.9	80% ('26)	隔年発表
	韓国型発射体活用衛星発射累積回 (科学技術情報通信部)	'22年 ('22)	2回	3 (3)	3 (3)	4	5	6回 ('27)	

1.当初の成果指標である「気候技術水準(グリーン技術センター)」の調査中断による指標変更

3.1.3 目標値・指標案の検討

ロジックチャートを整理し、それを元にロングリストとして指標候補リストを作成した。この指標候補から絞り込みを行い、目標値・指標案としてとりまとめた。

なお、検討は基本計画自体の検討と並行して実施したため、主に 2026 年 9 月 18 日の基本計画専門調査会資料「第 7 期「科学技術・イノベーション基本計画」の論点(案)」(以降、「論点(案)」という。)に基づいて行っている。

(1) ロジックチャートの整理

第 7 期基本計画の構成を議論するために、「アカデミアの研究力を向上させる」、「イノベーションを創出する」、「STI 政策と国家安全保障政策との有機的な連携」の 3 つの領域について、大目的から体系的を意識してブレークダウンし、アウトカム、プログラムを整理した。

- アウトカムは適切な軸を領域ごとに設定してブレークダウンした。
- プログラムについては、インプットであるヒトに関するもの、カネに関するものを整理し、加えてそれらを活用したプロセスに関するもの等を整理した。
- 論点(案)における論点がどこに対応するか、吹き出しとして示している。

1) アカデミアの研究力を向上させる

a. 目的の設定

(第 6 期基本計画、基礎科学力の強化に向けた今後の方向性、統合戦略 2025 等を基に作成)

我が国の基礎科学力を抜本的に強化し、世界トップレベルの知の創造とその社会実装を支える持続可能な研究基盤を構築する。また、多様な人材が国際的に往来・連携しながら挑戦的研究に果敢に取り組むことにより、Society 5.0 の実現と我が国の持続的成長、さらには国際社会における知の中核拠点としての地位を確立する。

b. アウトカムの設定

ア) 「研究時間の増加」

DX 化(事務・研究活動等)、研究支援人材の拡充等から、研究者(教員)の総時間中で占める研究のみに従事する時間が増加する。

イ) 研究の「生産性の向上」「多様性」「国際性の向上」

引用度の高い世界トップレベルの論文が輩出され、十分な研究費が確保されて、より注目度の高い研究領域への参画数・参画割合が増加し、日本の研究力の国際的なプレゼンスが向上する。

海外への派遣研究者数増加、国内への優秀な留学生や研究者の受入増加により、国際共同研究プロジェクトが推進される。

ウ)「研究人材の増加」「研究人材の高度化・多様化」

アカデミア以外の民間での博士人材の採用等、博士人材のキャリアパスの多様化が進むことで博士課程への進学者が増加する。

博士課程修了者のアカデミックポストへの登用増により、若手研究者が早期段階から PI として自立・活躍する。

研究プログラムにおける女性比率の増加等、女性研究者活躍の機会の創出から研究者の一層の多様化が進む。

エ)「研究開発投資」

政府研究開発予算の増加により、研究開発投資が促進される。

※ロジックチャートには図示せず。また、企業の研究開発に関連したヒト、カネは「イノベーション」に集約。

c. ロジックチャート

図 3-13 のようにロジックチャートを作成した。

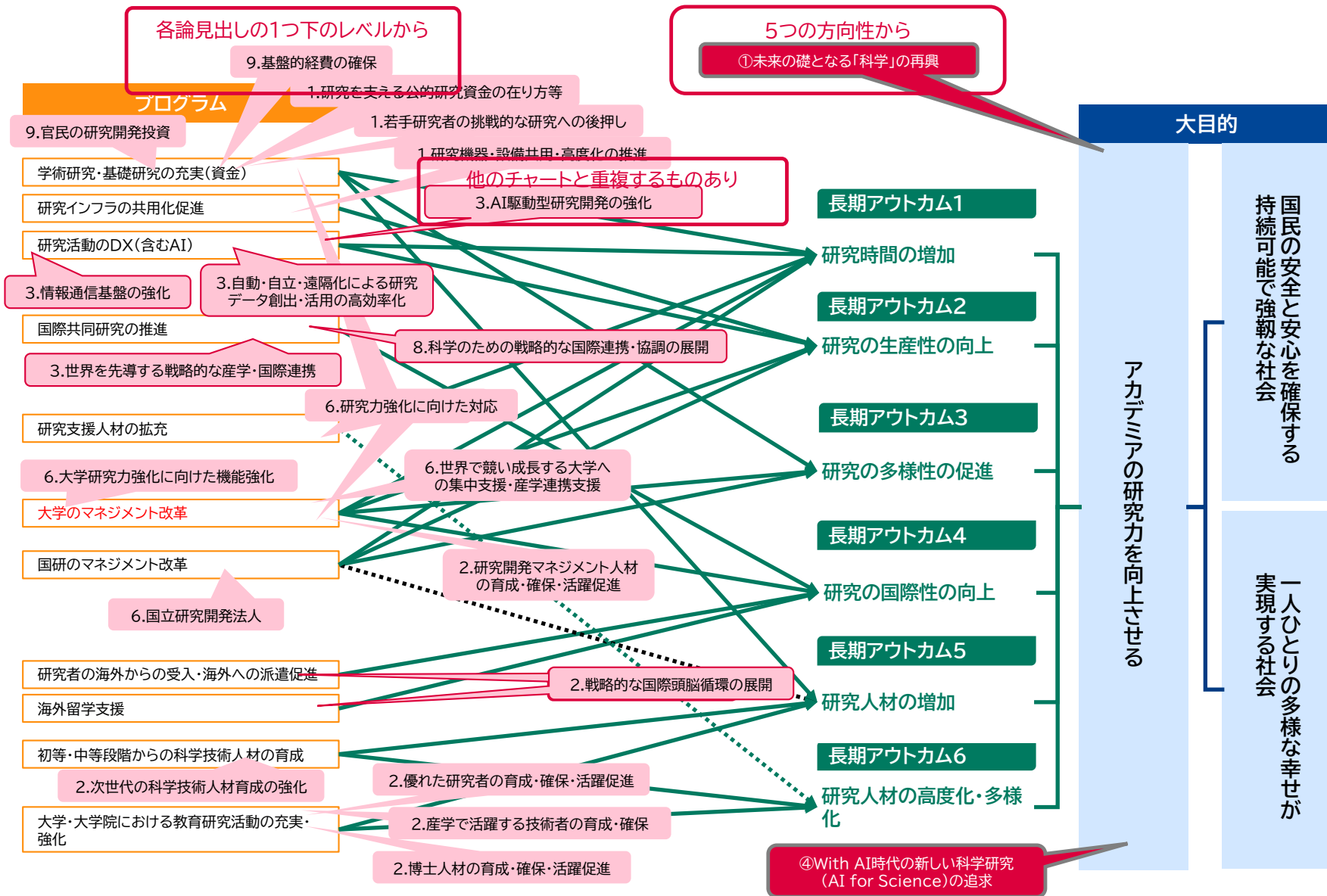


図 3-13 ロジックチャート(アカデミアの研究力を向上させる)

2) イノベーションを創出する

a. 目的の設定

科学的な発見又は発明、新商品又は新役務の開発その他の創造的活動を通じて新たな価値を生み出し、これを普及することにより、経済社会の大きな変化を創出すること。

b. アウトカムの設定

Society 5.0 の実現に向けた文脈から雇用・所得と社会課題の解決に着目して長期アウトカムを設定した。

ア) スタートアップの創出と成長、成熟企業(事業会社)からの新事業・新サービス

イノベーションの創出によってスタートアップが生まれ、既存企業の売り上げが拡大していくことによって、雇用や所得が生まれ、国民が豊かになっていく。

- 必ずしも製品・サービスの提供市場は日本でなくとも良い。
- 我が国で雇用・所得を生む企業(主として日本企業)に対する支援を整理した。
「SBIR」は日本で登記されている企業、国内研究機関の研究者を対象としているためこちらに再分類。
- 企業の研究開発に関連したヒト、カネは「研究力」ではなく、こちらの「イノベーション」に集約した。
- 公共調達を対象として我が国企業が中心となるため、こちらに含めた。

イ) 新市場における需要創出

製品・サービスが広く普及し、活用されることによって社会課題が解決され、社会や国民が豊かになる。

- 必ずしも製品・サービスが日本企業のものでなくとも良い。
- (国内外の企業を区別せず)我が国でどのイノベーションの普及に対する支援を整理した。

c. ロジックチャート

図 3-14 のようにロジックチャートを作成した。

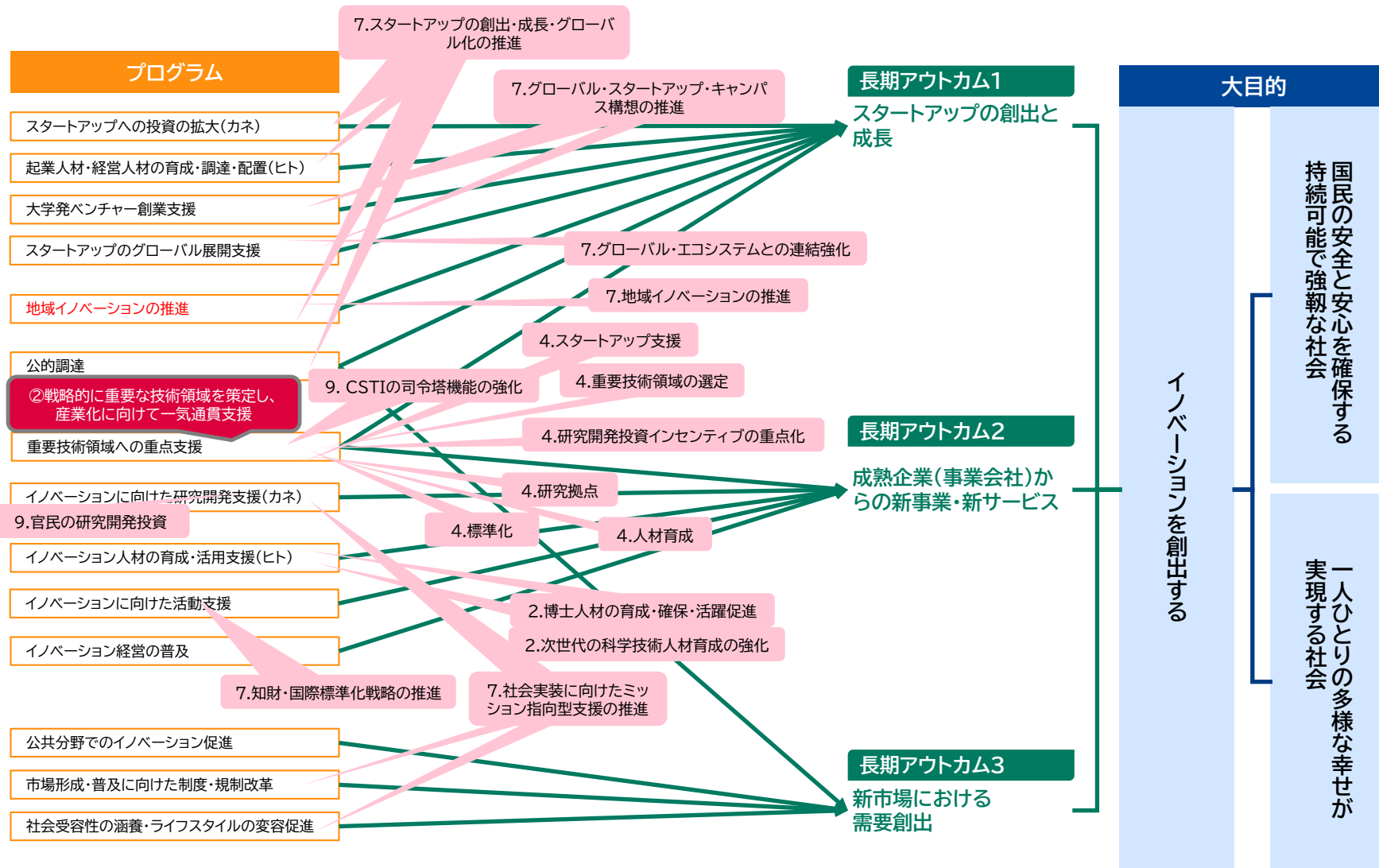


図 3-14 ロジックチャート(イノベーションを創出する)

3) STI 政策と国家安全保障政策との有機的な連携

a. 目的の設定

STI 政策と国家安全保障政策との有機的な連携を図る。

b. アウトカムの設定

4 つの長期アウトカムを設定した。

ア) 経済安全保障政策推進に向けた STI 政策の展開

重要な研究領域や研究資材、デュアルユース技術に関する研究力強化を通じて経済安保上の自律性・優位性・不可欠性を確立。

イ) STI 政策推進に向けた経済安全保障政策の展開

研究資材備蓄や特許非公開化、国際標準化や国際共同研究拠点誘致を通じて研究力強化を推進。

ウ) 科学技術・イノベーション推進のための国際連携・国際協調の展開

国際頭脳循環や国際的枠組み・研究環境の整備などヒト・モノ・カネ・場を整備することで STI が推進される。

エ) 科学技術・イノベーションを活用した国際貢献

従前より行われていた科学技術外交を中心に、人材交流や研究による国際貢献を通してグローバルサウスなどへの新たな国際貢献が進む。

c. ロジックチャート

図 3-15 のようにロジックチャートを作成した。

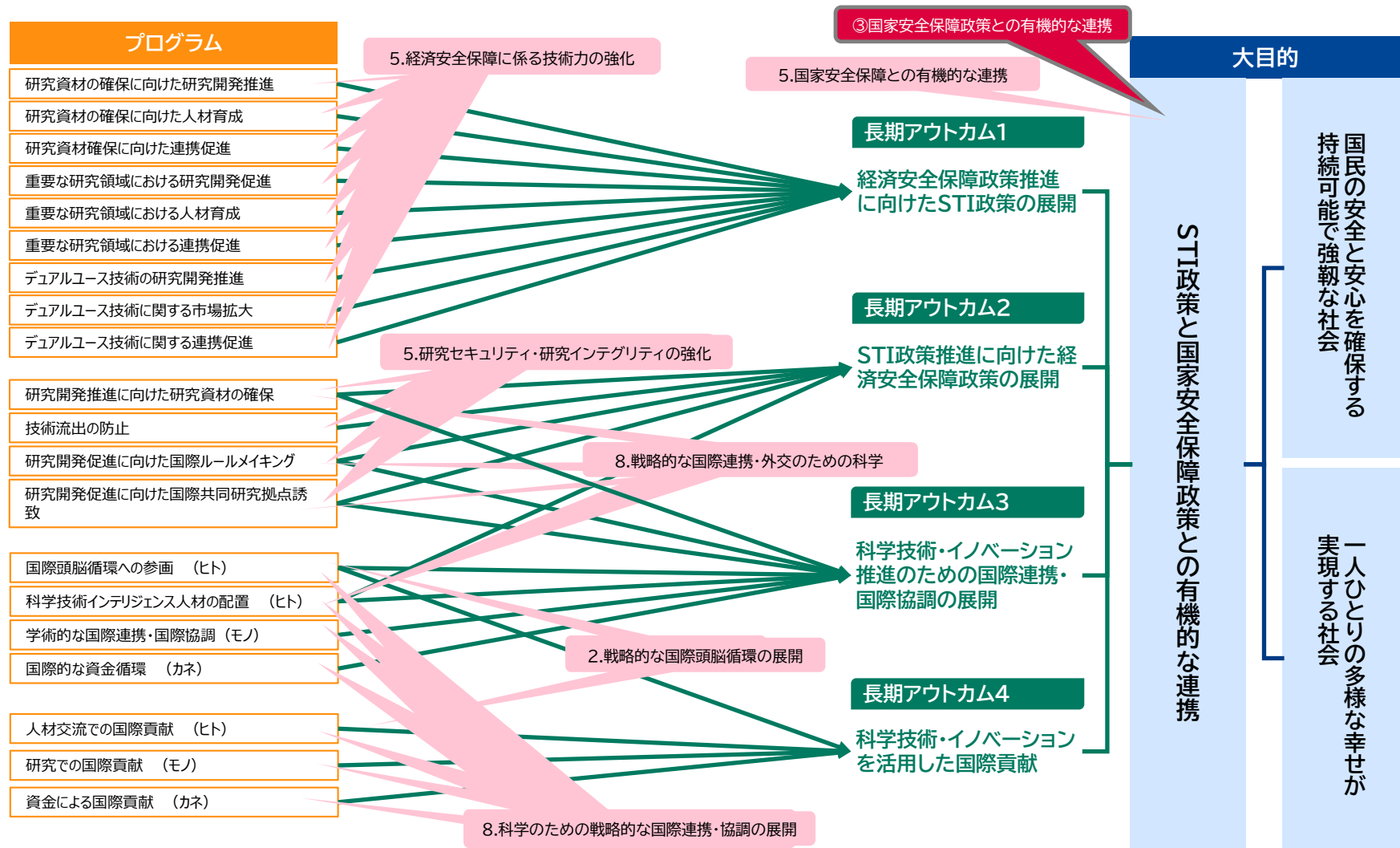


図 3-15 ロジックチャート(STI 政策と国家安全保障政策との有機的な連携)

(2) 指標候補リストの作成

アウトカムやプログラムの達成・進捗を見るための指標(案)約 150 を候補として列挙した。
(添付資料「第 7 期基本計画目標指標候補リスト」)

(3) 目標値・指標案としてのとりまとめ

指標候補リストから表 3-1 の観点で絞り込みを行った。

作業段階のイメージを図 3-16、図 3-17 に示す。基本計画全体の指標と目標値の案として、図 3-16 のように 4 つの方向性に対して長期と短期で整理した。個別領域の詳細として 4 つの方向性それぞれについて、図 3-17 のようにさらにブレイクダウンして指標と目標値の案をとりまとめた。

方向性	指標（長期）	指標（短期）								
①未来の礎となる「科学」の再興	■ Top10%補正論文数※1 <table><tr><td>目標</td><td>20,647件（2035年） （指標設定時の3位の 数値に相当）</td><td>現状</td><td>7,011件 （2021-2023年平均、 世界13位）</td></tr></table>	目標	20,647件（2035年） （指標設定時の3位の 数値に相当）	現状	7,011件 （2021-2023年平均、 世界13位）	■ 研究時間（職務活動のうち、研究活動が占める割合）※2 <table><tr><td>目標</td><td>40% （2035年度）</td><td>現状</td><td>32.2% （2022年度）</td></tr></table>	目標	40% （2035年度）	現状	32.2% （2022年度）
目標	20,647件（2035年） （指標設定時の3位の 数値に相当）	現状	7,011件 （2021-2023年平均、 世界13位）							
目標	40% （2035年度）	現状	32.2% （2022年度）							
②戦略的に重要な技術領域を策定し、 産業化に向けて一貫通貫支援	■ イノベーション実現企業率※3 <table><tr><td>目標</td><td>50%（2035年）</td><td>現状</td><td>36%（2021年- 2023年平均）</td></tr></table>	目標	50%（2035年）	現状	36%（2021年- 2023年平均）	■ イノベーション活動実行企業率※4 <table><tr><td>目標</td><td>65%（2035年）</td><td>現状</td><td>54%（2021年- 2023年平均）</td></tr></table>	目標	65%（2035年）	現状	54%（2021年- 2023年平均）
目標	50%（2035年）	現状	36%（2021年- 2023年平均）							
目標	65%（2035年）	現状	54%（2021年- 2023年平均）							
③国家安全保障政策との有機的な連携	■ 安全保障技術研究推進制度の応募数※5 <table><tr><td>目標</td><td>600件 （2035年度）</td><td>現状</td><td>340件 （2025年度）</td></tr></table>	目標	600件 （2035年度）	現状	340件 （2025年度）	■ Kプログラムにおける研究開発ビジョンに基づく 採択課題・プロジェクト数（累積）※6 <table><tr><td>目標</td><td>100件（2035年）</td><td>現状</td><td>43件（2025年）</td></tr></table>	目標	100件（2035年）	現状	43件（2025年）
目標	600件 （2035年度）	現状	340件 （2025年度）							
目標	100件（2035年）	現状	43件（2025年）							
④AI時代の新しい科学研究 （AI for Science）の追求	■ AI活力ランキング（R&Dのみを抽出）※7 <table><tr><td>目標</td><td>5位（2035年）</td><td>現状</td><td>8位（2023年）</td></tr></table>	目標	5位（2035年）	現状	8位（2023年）	■ ICT技術に基づく研究方法の変革の進展についての 指数※8 <table><tr><td>目標</td><td>4.5/10 pt （2035年度）</td><td>現状</td><td>3.3/10 pt （2024年度）</td></tr></table>	目標	4.5/10 pt （2035年度）	現状	3.3/10 pt （2024年度）
目標	5位（2035年）	現状	8位（2023年）							
目標	4.5/10 pt （2035年度）	現状	3.3/10 pt （2024年度）							

図 3-16 基本計画全体の目標値・指標案のとりまとめイメージ

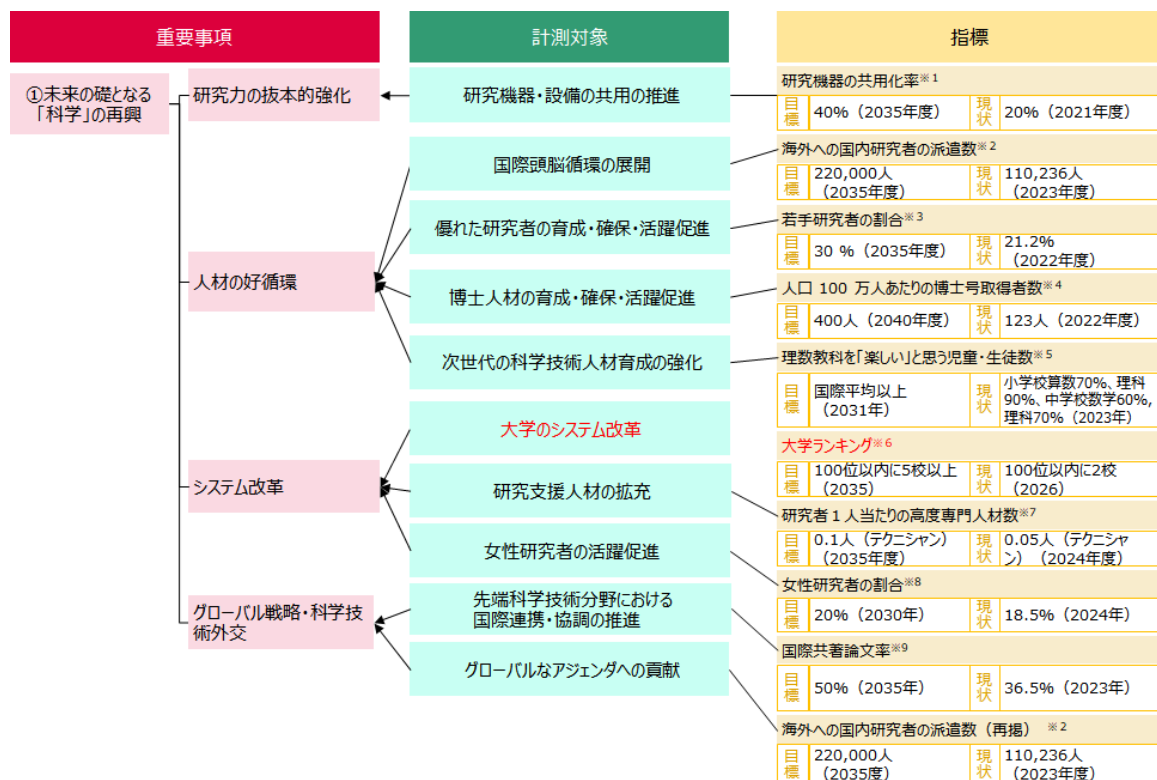


図 3-17 個別領域の目標値・指標案のとりまとめイメージ

3.2 日本及び諸外国における研究開発投資目標

日本をはじめ主要国は、政府研究開発投資の水準について目標を定めている。

第7期基本計画における研究開発投資目標の検討に資するため、主要 10 か国・地域（日本、EU を含む）について、どのような目標値が定められているかについて、その根拠文書と共に調査を行った。その結果を表 3-15 に示す。

現在、政府研究開発投資の目標値を明示的に設定している国は、10 か国・地域のうち、EU、英国、フランス、フィンランド、韓国と日本の 6 か国である。政府研究開発投資の目標値は、日本の様に総額で定めている場合や、対 GDP 比を置いている場合がある。

表 3-15 各国の研究開発投資目標

国・地域	研究開発の対 GDP 比 (2023) ※1	政府負担研究開発費の対 GDP 比 ※1	政府・科技イノベーション関連予算 ※2	研究開発投資目標		計画期間 (年度)	出所
				官民計 GDP 比	政府研究開発投資目標		
日本	3.56%**	0.55% (2023)	9.5 兆円 (2023)	4.0%	約 30 兆円(5 年間)	2021-2025	第 6 期科学技術・イノベーション基本計画(2021-2025 年) 統合イノベーション戦略 2021(2021 年 6 月 18 日閣議決定)
米国	3.45%*	0.65%* (2023)	28.2 兆円 (2023)	—	投資目標設定なし	—	
EU	2.13%	0.65% (2021)	19.4 兆円 ※3 (2023)	3.0% (2030)	1.25% (対 GDP 比、2030)	2021-2030	欧州研究・イノベーション協定(2021) ERA 戦略文書(2024 年 10 月)
英国	2.80% (2022)	0.51% (2022)	2.1 兆円 ※3 (2021)	2.4% (2027)	年間 220 億ポンド(2024/25 までに)	2020-2027	英国研究開発ロードマップ (2020 年 7 月)
フランス	2.19%*	0.71%* (2022)	2.9 兆円 (2023)	3.0% (2030)	2020 年比 35% 以上増(2030)、10 年間で 250 億ユーロの追加投資	2021-2030	複数年研究計画法(2021-2030 年)
ドイツ	3.11%*	0.92%* (2021)	6.9 兆円 (2023)	3.5% (2025)	投資目標設定なし	2018-2025	ハイクテック戦略 2025 Hightech Agenda Deutschland(2025 年 7 月閣議決定)
フィンランド	3.09%	0.77% (2022)	0.4 兆円 (2023)	4.0% (2030)	1.33%(対 GDP 比、2030)、2030 年まで毎年 2.8 億ユーロを追加投資	2024-2030	研究開発資金の複数年計画(2024-2030 年) 研究開発資金法 (1092/2022)
イスラエル	6.35%	0.42% (2022)	0.4 兆円 (2023)	—	投資目標設定なし	—	

国・地域	研究開発の対GDP比(2023) ※1	政府負担研究開発費の対GDP比 ※1	政府・科技イノベーション関連予算 ※2	研究開発投資目標		計画期間(年度)	出所
				官民計GDP比	政府研究開発投資目標		
中国	2.58%	0.44% (2023)	23.8 兆円 ※4 (2023)	年平均7%以上の成長	投資目標設定なし	2016-2030 2021-2025	国家イノベーション駆動発展戦略綱要(2016-2030年) 第14次五か年計画(2021-2025年)
韓国	4.96%*	1.13%* (2023)	3.4 兆円 (2023)	—	5%(政府総支出比)、5年間で170兆ウォン	2023-2027	第5次科学技術基本計画(2023-2027年) 第1次国家研究開発中長期投資戦略

注)

* 暫定値 ** 科学技術研究調査(2025年12月時点)である。

※1 OECD, Main Science and Technology Indicator, 2025年9月11日アクセス。ただし日本は、科学技術研究調査(2025年12月時点)の2023年度の値。

※2 OECD, Government Allocations for R&D (GBARD), 2025年9月11日アクセス(IMF, International Financial Statistics, 2025年9月ダウンロードにて円換算)

※3 Eurostat, Government budget allocations for R&D (GBARD), 2025年9月11日アクセス

※4 中国国家統計局、科学技術部、財政部、2023年国家科学技術資金統計速報, 2025年9月11日アクセス

出所)内閣府「第6期科学技術・イノベーション基本計画」<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>、2025年9月11日アクセス

内閣府「統合イノベーション戦略2021」

https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/togo2021_honbun.pdf、2025年9月11日アクセス

EU「欧州研究・イノベーション協定」、<https://eur-lex.europa.eu/eli/reco/2021/2122/oj/eng>、2025年9月11日アクセス

EU「ERA 戦略文書」https://european-research-area.ec.europa.eu/sites/default/files/2024-10/COM_2024_490_Implementation_of_the_European_Research_Area_%28ERA%29_22-20-2024.pdf、2025年9月11日アクセス

英国「英国研究開発ロードマップ」<https://www.gov.uk/government/publications/uk-research-and-development-roadmap>、2025年9月11日アクセス

フランス「複数年研究計画法」<https://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/sites/default/files/2021-09/dossier-de-presse-lpr-du-09-septembre-2020-12878.pdf>、2025年9月11日アクセス

ドイツ「ハイテック戦略2025」

https://www.bmfr.bund.de/SharedDocs/Publikationen/DE/FS/657232_Bericht_zur_Hightech-Strategie_2025_en.pdf、2025年9月11日アクセス

ドイツ「Hightech Agenda Deutschland」<https://www.bundesregierung.de/breg-de/aktuelles/hightech-agenda-deutschland-2366912>、2025年9月11日アクセス

フィンランド「研究開発資金の複数年計画」

https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/165793/VN_2024_41.pdf?sequence=1&isAllowed=y、2025年9月11日アクセス

フィンランド「研究開発資金法」<https://www.treasuryfinland.fi/investor-relations/sustainability-and-finnish-government-bonds/the-national-plan-to-raise-rd-funding/>、2025年9月11日アクセス

中国「国家イノベーション駆動発展戦略綱要」<https://spap.jst.go.jp/china/policy/downloads/aprc-fy2022-pd-chn02.pdf>(原典は https://www.most.gov.cn/szyw/yw/201605/t20160520_125675.html)、2025年9月11日アクセス

中国「第14次五か年計画」https://www.gov.cn/xinwen/2021-03/13/content_5592681.htm、2025年9月11日アクセス

韓国「第5次科学技術基本計画」<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor02.pdf>、2025年9月11日アクセス

韓国「1次国家研究開発 中長期投資戦略」<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-kor03.pdf>、2025年9月11日アクセス

4. 統合イノベーション戦略に関する支援

4.1 統合イノベーション戦略策定支援

第7期基本計画でも取り扱うトピックについて、第 7 期基本計画答申素案「1. 現状認識」に対応する海外参考情報として、主要国における STI 政策の動向・取組に関する情報提供を行い、内閣府における検討を支援した。

【付属資料 4.1-01】主要国における科学技術・イノベーション政策の動向・取組

4.2 統合イノベーション戦略 2025 の英訳

以下に示す英文科学技術関連資料の作成を実施した。

- 統合イノベーション戦略 2025

自動翻訳ツールを活用した機械翻訳結果をベースに、翻訳業者による修正・校正の実施に加え、作成済みの日英辞書(用語集)の活用により以下の英訳を実施した。

- 統合イノベーション戦略 2025 概要
- 統合イノベーション戦略 2025 本文
- 統合イノベーション戦略 2025 別添